10月6日　SAFE TOWN in CHIBA ～防災フェス～　開催レポート

2026.10.6

あいおいニッセイ同和損保
MS&AD INSURANCE GROUP

SAFE TOWN in CHIBA ～防災フェス～

開催概要

【日　時】2026年10月6日(火)11:00-16:00
【場　所】一般財団法人 千葉市教育会館
千葉県千葉市美浜区高浜3-1-3
【参加者】202名

【共　催】日本生命保険相互会社 三井住友海上火災保険株式会社
【後　援】千葉県・千葉市・千葉商工会議所・一財)教職員保険センター一社)千葉県損害保険代理業協会・全日本ロータス同友会千葉県支部
AD千葉支店プロ会・AD千葉北支店プロ会
三井住友海上あいおい生命保険株式会社

屋内ブース

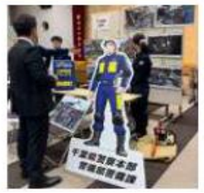
（敬称略）

千葉市



8/13に発生した千葉豪雨について展示いただきました。アンダーパスの浸水経過動画では短時間で水位が上昇し豪雨の恐ろしさを実感しました。

千葉県警察



実際の救援活動の様子や被災地支援に行く際に持参される道具を展示していただきました。チェーンソーなどの工具が人命救助に活躍します。

株式会社SL Creations千葉



常備型社食サービスの「オフィスプレミアムフローズン」をご紹介いただきました。 福利厚生のみならず、災害時のローリングストックとしても活用できるサービスでした。

株式会社クリュートメディカルシステムズ



タブレット型視野チェッカー「TAPIMO」をご紹介いただきました。ゲーム感覚で緑内障の早期発見につなげ、視野欠損による交通事故発生を防ぐことを目指しています。

三井住友海上火災保険株式会社



水災事故対応ツールと防災教育コンテンツ「HIRAQ(ヒラク)」をご紹介いただきました。「HIRAQ」は帰宅困難・避難所生活などの被災シナリオをテーマにしたディスカッションボードゲームです。学校の授業や自治体セミナー、地域の防災イベント等で活用され、災害に強い社会づくりを後押ししています。

防衛省自衛隊千葉地方協力本部



「自衛隊の災害派遣活動」についてパネル展示していただきました。現在も県内の被災地域で活動をしているとのことでした。

千葉県損害保険代理業協会



小学生が主役の安全教育プログラム「ぼうさい探検隊」が作成した、地域の危険な場所についてのマップを展示していただきました。

日本生命保険相互会社



手のひらを測定器に置いて、簡単に推定野菜接種量を数値化する「ベジチェック」を実施いただきました。災害時にも健康であることは非常に大切です。災害時に自分自身を守ることにつながります。また有事の際に人に手を差し伸べることができるためにも健康を意識しましょう。

千葉科学大学危機管理学部×銚子円卓会議



千葉科学大学危機管理学部 木村教授と学生の方が地域の魅力を活化しながら備蓄と支援を両立する「OSUSOWAKE」を説明してくださいました。 ”平時には地元の商品を通じて地域を応援する。有事にはそのつながりを活かして被災地を支える。“という「OSUSOWAKE」の考え方に多くの方に共感していただきました。

アキレス株式会社・明治機械株式会社
インプルーブエナジー株式会社・株式会社トレミール



アキレス株式会社は『どこでもおうちベッド』など避難所生活の環境改善につながる商品をご紹介いただきました。
明治機械株式会社とインプルーブエナジー株式会社はそれぞれ屋外に3WAYポールと仮設トイレを展示していただきました。
株式会社トレミールは災害時通信インフラシェアリングサービス「DIP-BoX」・防災見守りアプリ「とれみる」をご紹介いただきました。

あいおいニッセイ同和損保



防災VR/ARを活用し,浸水と地震の体験を実施しました。雨で水が濁った中で障害物を避けながら歩く体験では、浸水時に通行することの危険さを体験していただきました。また地震VR体験では震度6強の揺れを再現し、日頃からにどのような備えができるのか考えるきっかけとしていただきました。

講演

千葉県地震被害想定調査の公表を受けて

講師:千葉科学大学　学長　藤本 一雄　氏



令和8年5月に千葉県が公表したデータについて、地震被害祖想定調査のポイント、風水害リスクのアップデート、明日からの防災・減災対策について講演をしていただきました。
参加者からは「危険リスクより自宅に戻る行動を優先するデータが興味深かった」「特に今回の関東での台風がひどかったので過去の事例など参考になった」との声をいただきました。

減災・サステナブル学×災害治療学で推進する革新的空間・ビジネス創成

講師:千葉大学名誉教授・特任教授
＜災害治療学研究所＞　浅沼 博　氏



災害治療学の概要と災害治療学研究所の活動紹介、逃げる防災から逃げないで済む防災、絶対安心・快適な社会とは何かをテーマに講演をしていただきました。
参加者からは「自然災害から得るものがあり、そこから電池などに交換するとい発想がなかったので新しい視点だった」「地下シェルター等の話が面白かった」との声をいただきました。

リスクファイナンス判断シート解説

講師:関東経済産業局　中小企業課



関東経済産業局が開発した「リスクファイナンス判断シート」は、休業時に必要となる資金や保険などの調達可能な資金が簡単に算定・比較できる点など活用方法について解説をいただきました。
参加者からは「とても勉強になった」「すぐにリスクファイナンスシートを作成して、災害時の費用を確認したい」との声をいただきました。

事業継続力強化計画策定ワークショップ

運営:三井住友海上あいおい生命株式会社



実際に事業継続力強化計画の策定と申請を行うことを前提に、各テーブルに分かれてワークショップを実施しました。作成した資料とハザードマップは持ち帰り、後日申請の骨子としていただきます。
参加者からは「策定と申請の詳細が理解できた」「何から手を付けるべきかわからなかったが、頭が整理できた」との声をいただきました。

10月6日　SAFE TOWN in CHIBA ～防災フェス～　開催レポート

屋外ブース

（敬称略）

有限会社大成自動車解体



災害時や停電時でも機能する「電気を使わない人の体重で開く自動ドア」をご紹介いただきました。ミニチュア版で解説いただくことにより、仕組みを理解することができ驚きました。

明治機械株式会社



3WAYポール「そ・ら・こ」の実機を展示いただきました。ソーラー（電源）・ライト（照明）・コネクト（Wi-Fi）の1基3役の多機能ポールです。災害に強いネットワークを低コスト・広範囲で実現できることをご紹介いただきました。

アイコミュニケーションズ株式会社



コンパクトで設置も簡単、価格もお手頃な災害対策電力ユニット”Eneco”をご紹介いただきました。地震や台風など自然災害による停電により「あって当たり前」ではなくなった電気。新しい災害対策として注目されています。

有限会社オートウィル



被災地で活躍する冷暖房とシャワー付きトイレを備えたトイレレーラーをご紹介いただきました。移動式トイレのため設置・撤去作業が不要であり、駐車スペースがあれば簡単に設置できます。様々な人が快適に使うことができる設計になっています。

勝又自動車株式会社



災害時の電気自動車からの給電について展示いただきました。一般家庭において、通常の環境下の3.5日分の電気の供給ができるということを来場者へご案内いただきました。

株式会社清水商会
ダイハツ千葉販売株式会社



株式会社清水商会は排水ポンプをご紹介いただきました。短時間で相当量の排水をすることが可能であり、広く認識いただくことで復興支援につなげていきたいとのことでした。



ダイハツ千葉販売株式会社は車中泊の方法について展示いただきました。災害時にも自動車が活用できることがをお伝えいただきました。



また、両社がコラボして移動販売車（Nibako）にて非常食の販売を実施していただきました。

オリロー株式会社



建物の上階から地上への避難だけでなく、洪水や津波の時の垂直避難用の商品について説明いただきました。また避難用はしごの使い方等についてもレクチャーいただきました。

千葉県警察



今年も警察犬が来てくれました。彼にとっては「ボールで遊ぶこと」がご褒美です。指示を達成するとボールで遊ぶことができると訓練され、実際の災害現場では行方不明者の捜索ができるようになります。とても賢く、来場者のみなさまと触れ合ってくれました。

有限会社拓磨工研



熱中症対策機ARKを展示いただきました。
テント内に入ると非常に涼しい環境でした。被災地や作業現場などの大規模施設を素早く冷却でき,熱中症や体調不良のリスクを大幅に低減することができます。

インプルーブエナジー株式会社



被災地で使用された感染予防型快適トイレ『Zone Zero』を展示いただきました。特許技術「オドレスファイ方式」により薬剤を使わず無臭化し、被災地の声からより使いやすいトイレを実現しています。

あいおいニッセイ同和損保



雹から車を守る「防雹マット」の試作品を展示しました。
ボンネットに鉄球を落とす実験で、装着による効果を体感いただきました。「使ってみたい」との声も寄せられ、本格展開に向けた貴重なご意見を収集できました。

浸水時　脱出実演

全日本ロータス同友会千葉県支部のみなさまに浸水した車両からの脱出方法について実演していただきました。
まず、道路が冠水した際にはタイヤの半分以上の水位になっているところには侵入しないことが原則です。やむを得ず走行する際には、速度を人が歩くペースまで落とし、前の車との距離を空けて波を立てないことが重要とのことでした。
また、車内によくある傘・空き缶・ヘッドレストでは車両のガラスを割ることは難しいことを実演していただきました。「脱出用ハンマー」を使うと女性でも簡単にガラスを割ることができ、あらかじめ車内に備えておくことがいかに重要か教えていただきました。







来場者のみなさまからの注目度も高く
2回の実演ともに超満員でした。

参加者のコメント

・最近自然災害が多かったこともあり、関心の高い内容の展示が多かった
・防災意識を高めるきっかけにできた
・災害時の車両からの脱出方法の実演は、千葉豪雨が発生した後ということもあり、興味深く、役に立つ内容だった
・参加したからこそ良い内容だということが分かった、多くの人が参加すべきイベントだと思う
・具体的な対策や防災、減災を考える良い機会になった
・車両からの脱出実演などを通じて、有事の際に役立つ知識を習得できた
・今まで学んできた防災知識がすべて正解ではないことを知り、災害の種類や規模に応じた対応が重要であることを学んだ

当日は多くのメディアに
取組を取材していただきました。



多くの方にご協力いただきました。



多くの皆さまにご来場いただき盛況のうちに終えることができました。誠にありがとうございました！